

第117回 品質管理シンポジウム (QCS)



【基調講演】

早稲田大学 理工学術院 教授
棟近 雅彦 氏



【講演1】
川崎重工(株)
代表取締役社長執行役員、最高経営責任者
橋本 康彦 氏



【講演2】
梅津総合研究所(株) 代表取締役
一橋大学大学院 経営管理研究科 講師
梅津 光弘 氏



【講演3】
UBE(株) 代表取締役社長
社長執行役員 CEO
泉原 雅人 氏



【講演4】
西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士
木目田 裕 氏



【特別講演】
菊水鮭西店 店主
柏木 延浩 氏



日程：2024

5/30Thu~6/1Sat

会場：大磯プリンスホテル

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

WEB：<https://www.juse.jp/qcs/>



テーマ：

~品質不祥事の防止と真の顧客価値創造、必要な組織能力~
原点回帰! 品質経営を改めて考える

趣旨



棟近 雅彦 氏

早稲田大学 理工学術院 教授

第 117 回

品質管理シンポジウム

主担当組織委員

日本は、「品質=要求との合致」という考え方のもとに、品質を中心とする経営を実践し、品質世界一の座を獲得したこともありました。近年は、バブル崩壊後の失われた30年を取り戻すべく、顧客価値創造の実現を目指し、そのための組織能力をいかに獲得すべきかについて、各組織は努力し、このQCSでもその方法論について議論を重ねてきました。

しかし、その一方で、品質不祥事が継続的に発生しています。大半の組織、そしてほとんどの従業員は、顧客満足をめざして真摯なものづくりやサービス提供に取り組んでいます。しかし、たとえ全体に占める割合としてはごくわずかであっても、また、たった1件の不祥事であっても、顧客や社会の信頼を失ってしまいます。問題が発生した組織は、それぞれに深く反省し、策を講じてきたと思われます。品質不祥事を確実に防止するためには、問題の発生の有無に関わらず、あらゆる組織がこれまでの事例や対策を業界全体、さらには社会全体で共有しながら、もう一步踏み込んだ議論が必要と思われます。

品質不祥事に関連して、業界をあげて改革を行ってきた先駆例としては、医療分野があります。医療界では、1999年から2000年にかけて、重大な医療事故が多発し、大きな社会問題となりました。そこから官民一体となって、質・安全を重視した医療を実現すべく、様々な改革を行ってきました。品質マネジメントの考え方も広く認知されるようになり、安全性の向上とともに、医療の質向上にも貢献しました。ただし、医療事故が皆無になったわけではありません。元々医療は侵襲行為をとまなう業態ですから、事故のリスクは常にあります。したがって、事故を隠蔽しないことも含む安全

重視の文化を醸成しながら、質・安全を向上させる取り組みと、事故が起きた場合の適切な対処方法を取り入れた、品質マネジメントシステムの構築を進めてきました。

産業界は、利潤を追求する活動を競争環境の中で行っており、人のプレッシャーに対する弱さもあり、品質不祥事が起こるリスクが常に存在します。したがって、一度策を講じればそれで終わりということはありません。発生防止策、起きた場合の対処策を、品質マネジメントシステムの中に組み込み、継続的に改善していく必要があります。また、1組織の品質マネジメントシステムにおける改善だけでなく、制度や規制の改革、商慣習の見直し、ビジネスモデルのあり方など、業界や社会全体としての改革も必要になると考えられます。

本シンポジウムは、品質経営を議論するための日本での最高峰の場です。品質立国日本を再生するためには、一度この問題をこの場できちんと議論しておく必要があるのではないのでしょうか。特に、品質を中心とする経営を実践するためのツールであるTQMは、品質不祥事を防止するために有効な品質マネジメントシステムと考えられます。品質不祥事を防止するためにTQMのどういった点が有効で強化すべきなのか、必要な組織能力は何なのか、TQMを実践していても品質不祥事が発生する原因・背景は何かを、本シンポジウムで明らかにしたいと思います。

日本企業の強みは、品質重視の経営であると確信しています。原点に再度立ち返って、真に顧客満足を達成するために何をしなければならぬか、真っ向から議論したいと思います。テーマ名にある「原点回帰!」は、この思いを表現したものです。品質経営を実践している皆様、一緒に議論しませんか。

プログラム

開催期日：2024年5月30日（木）～6月1日（土）

会場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2024年3月現在の表記になっております。

月日	時間	科目（講演テーマは仮）	講演者（敬称略）		
5/30 (木)	19:00～20:10	〈特別講演〉 お客様への感動を追求する、「変化し続ける」寿司屋のチャレンジ	柏木 延浩 菊水鮎西店 店主		
	20:10～20:30	質疑・応答			
	20:30～22:00	GD(1)、談話室			
5/31 (金)	8:30～ 8:40	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長		
	8:40～ 9:25	〈基調講演〉〈オリエンテーション〉 原点回帰! 品質経営を改めて考える			
	9:25～ 9:40	質疑・応答	棟近 雅彦 早稲田大学 理工学術院 教授 (117QCS主担当)		
	9:40～ 9:45	入替(5分)			
	9:45～10:35	〈講演1〉 次の社会へ、信頼のこたえを ～川崎重工のグループビジョン2030とTQM活動	橋本 康彦 川崎重工業(株) 代表取締役社長執行役員、最高経営責任者		
	10:35～10:50	質疑・応答			
	10:50～11:00	休憩(10分)			
	5/31 (金)	11:00～11:50	〈講演2〉 企業倫理の観点からみた品質不正事案の背景と防止策: 最近の日本製造業の不祥事から	梅津 光弘 梅津総合研究所(株) 代表取締役 一橋大学大学院 経営管理研究科 講師	
		11:50～12:05	質疑・応答		
		12:05～13:00	昼食休憩 (55分)	泉原 雅人 UBE(株) 代表取締役社長 社長執行役員 CEO	
		13:00～13:50	〈講演3〉 UBEにおける経営意識改革推進～失敗を機会に～		
		13:50～14:05	質疑・応答		
		14:05～14:10	入替(5分)		
		14:10～15:00	〈講演4〉 品質不正の防止に向けて		木目田 裕 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士
		15:00～15:15	質疑・応答		
15:15～15:35	GD会場へ移動・休憩(20分)				
6/1 (土)	15:35～19:00	GD(2)	司会：棟近 雅彦 報告：各班リーダー		
	19:00～20:00	夕食			
	20:00～21:30	談話室			
	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)		棟近 雅彦 118QCS主担当組織委員 森 雅彦	
	10:00～10:15	休憩			
	10:15～11:30	総合討論			
	11:30～11:50	第117回 品質管理シンポジウム まとめ			
11:50～12:00	次回(第118回)品質管理シンポジウム案内				
12:00～	昼食・解散				

※GDはグループ討論の略です。

講演概要

5/30 (木) 特別講演

お客様への感動を追求する、
「変化し続ける」寿司屋のチャレンジ

柏木 延浩 氏

菊水鮓西店 店主



兵庫県明石市の「菊水鮓西店」の店主をしています。開業して1年半で亡くなった父の後を継ぎ、早50年が経ちました。「常に変化し続ける」こと、そのために「研究し続けること」を意識してこれまでやってきました。寿司を提供してお代をいただくのではなく、幸せを提供しその満足に対してお代をいただくことを心掛け、日々店を訪れてくださるお客様との一期一会を大切にしています。

今回の講演では、お客様一人ひとりの期待を超えた感動を提供するための素材へのこだわりについて焦点を当てつつ、経営者として意識していることについてもお話させていただきます。

5/31 (金) 基調講演・オリエンテーション

原点回帰!
品質経営を改めて考える

棟近 雅彦 氏

早稲田大学 理工学術院 教授



本講演では、今回のシンポジウムのオリエンテーションを行います。メインテーマとしては、品質不祥事の防止を取り上げました。品質立国日本を再生するためには、一度この問題をこの場できちんと議論しておく必要があると思います。日本企業は、顧客満足に関しては確固たる地位を築いてきたものの、これだけ品質不祥事を発生させているのは、品質の大切さをおろそかにした点があったことは否めません。再度原点に立ち返り、真に顧客満足を達成するために何をしなければならないか、真つ向から議論する、これが本シンポジウムでめざすことです。

議論に先立ち、品質不祥事を議論するにあたっての前提である「産業界に品質不祥事リスクは常に存在する」ことについてお話しします。次に、講演者と講演の趣旨についてご紹介します。また、グループディスカッションについては、8つのテーマを設定しましたので、そこでの論点について説明します。

5/31 (金) 講演 1

次の社会へ、信頼のこたえを
～川崎重工のグループビジョン2030と
TQM活動

橋本 康彦 氏

川崎重工業(株)

代表取締役社長執行役員、最高経営責任者



川崎重工業グループは120年以上にわたり、陸・海・空の幅広い事業分野で、時代の流れと共に変化し続ける社会に対して必要とされている製品・サービスを提供してきました。

今後、より多様化・深刻化する社会課題に対して、タイムリーに世の中が求めるソリューションを提供すべく、グループビジョン2030「つぎの社会へ、信頼のこたえを～Trustworthy Solutions for the Future～」を掲げ、今後注力するフィールド「安全安心リモート社会」「近未来モビリティ」「エネルギー・環境ソリューション」を定めました。本講演では、当社グループビジョン2030の概要とその実現を支える重要基盤であるTQM活動について紹介いたします。

5/31 (金) 講演 2

企業倫理の観点からみた
品質不正事案の背景と防止策:
最近の日本製造業の不祥事から

梅津 光弘 氏

梅津総合研究所(株) 代表取締役

一橋大学大学院 経営管理研究科 講師



私は1980年代のアメリカで当時興隆著しい分野であった企業倫理学(Business Ethics)を研究し、博士号を取得しました。

1992年に母校の慶應義塾に戻ってきて以来、この分野を理論と実践の両面から普及・啓蒙することに努めてきました。

当初は銀行、証券、保険などの金融業や電力、商社、マスコミ、不動産などサービス業での不祥事を扱うことが多かったのですが、ここ数年は製造業の不祥事が目立つようになってきました。品質の高さを誇ってきた日本の製造業に何が起きているのか?製造業の品質不適合事案は単なる一産業分野の不祥事にとどまらず、日本のビジネス全体の信用を毀損するやむを得ない大問題です。企業倫理学の観点からその再発防止策の一端をお話しさせていただきます。

5/31 (金) 講演 3

UBEにおける経営意識改革推進
～失敗を機会に～

泉原 雅人 氏

UBE(株) 代表取締役社長 社長執行役員 CEO



UBEグループは、過去の品質検査に係る不適切事案を機会にグループ一体で品質保証活動を強化してきました。

これに加え、スペシャリティ事業を中核とする企業グループを目指して、顧客満足を軸にUBEの企業存在価値を最大化させる品質経営への取り組みをステップアップし、品質がUBEの強みとして認識されるようにスピードを上げて取り組んでいます。

本講演では弊社での具体的な取り組みを交えてお話しします。

5/31 (金) 講演 4

品質不正の防止に向けて

木目田 裕 氏

西村あさひ法律事務所・外国法共同事業
弁護士



最近も、大きく報道される品質不正問題が相次いでいます。

私は、企業不祥事における危機管理を専門とする弁護士ですが、企業の品質不正問題に関し、調査委員会の委員等を務めたり、企業に対応を助言するなどして、事実関係の調査、原因究明、再発防止策の構築などに関わってまいりました。

そうした経験を踏まえて、品質不正問題に関し、事実関係等の調査を行う上での留意点や、品質不正を防止するためのガバナンスの在り方や体制作り等について、お話をさせていただきます。

品質不祥事の防止における経営トップ層の役割

飯塚 悦功(東京大学名誉教授), 長谷川 武英(ケオリテック品質・環境システムリサーチ 代表)

第1班

趣旨 品質不祥事を防止するためには、経営トップ層(取締役、執行役員)が、絶対に発生させないという不退転の決意を示し、実際に不祥事防止にコミットすることが肝要です。こうしたことについては、どの組織の経営トップ層も頭では理解していると思われそうですが、具体的に何を実施すればよいか、必ずしも明らかになっていません。品質不祥事を防止しなければならないという前提のもと、組織は、競争環境の中で生き残り、持続的成功を実現しなければなりません。経営トップ層には、これらいずれの側面においても、リーダーシップを発揮することが求められます。品質不祥事を防止しながら品質を中心とする経営を行っていく上で、経営トップ層が率先垂範すべきことについて議論します。

論点

- 顧客価値提供による持続的成功をめざすにあたり、品質不祥事防止の観点から経営トップ層に期待される思想・行動原理は何か。
- ①の価値観の浸透を図るうえで、阻害要因となりうる人の特性や組織論理は何か。
- こうした状況下で、経営トップ層は、TQMの名の下で何を実施すればよいか。コミットするとは何を意味するか。

品質不祥事の防止における部課長の役割

金子 雅明(東海大学 情報通信学部 情報通信学科 教授), 平林 良人(株テクノファ 取締役会長)

第2班

趣旨 組織経営において、経営トップと現場の第一線の橋渡し役として、部課長の役割は重要です。経営目標の達成に対しても要であるとともに、品質不祥事の防止においても、現場で問題が起きれば現場が声をあげられるような風土を作る、現場に品質不祥事の徴候があればいち早く検知して対処する、自部署のみで解決できない問題であれば経営トップや関連部署に支援を求めるなど、果たすべき役割は多岐にわたります。このような役割を果たすために、部課長はどのような行動をすべきか議論します。

論点

- 不祥事を起こりやすくしている実態(社会情勢、ビジネス環境の激化、部門課への要請・プレッシャー、構成員の多様性とその働き方への配慮等)としてどのようなものがあるか。
- ①の実態を踏まえて、不祥事を確実に防止するための、部・課長としての困りごとは何か。
- 不祥事を確実に防止するために、部・課のマネジメント(TQMを含め)においてどのような施策や工夫をすればよいか。

品質不祥事の防止における品質保証部門の役割

鈴木 秀男(慶應義塾大学 理工学部 教授), 島田 達也(三菱電機(株) 執行役員)

第3班

趣旨 品質保証部門は、設計、製造等の部門が、顧客要求を満たす製品・サービスを生み出すことができるよう様々な支援を行うとともに、品質不祥事に限らず、適切に業務が行われるように他部門を監視、牽制する役割を持っています。そのために、他部門とは独立して責任・権限をもって活動する必要がある一方で、製品品質の改善のために、他部門と連携しながら業務を行うことも少なくありません。顧客に対して品質保証を行う責任部門として、どのような活動を、どのような組織体制で業務にあたればよいかについて、議論します。

論点

- 各部門が不祥事を行わないよう牽制するためにどのような活動を行えばよいか。
- 検査における不祥事を防ぐためにどのような工夫をすればよいか。
- 品質保証機能は、どのような組織体制で実践するのがよいか。

品質不祥事を防止するための現場管理のあり方

安藤 之裕((一財)日本科学技術連盟 嘱託), 高倉 宏(トヨタ自動車九州(株) TQM推進室 室長)

第4班

趣旨 実際に品質不祥事が行われてしまうのは、設計、製造、検査などの現場です。品質不祥事防止のために、防止策を実行するとともに、不祥事に結びつきそうな異常をいち早く発見し、着実に対処していく必要があります。現場には、経営目標を達成するためのスケジュール、効率化、工数低減、コストダウン、などのプレッシャーが、絶えずかかってきます。また以前とは違い、労務管理が厳しくなっています。このような状況下でも不祥事は許されないことであり、現場管理をどのように行うかは重要な課題です。品質不祥事を防止するために、現場管理にどのような工夫を取り入れればよいか、議論します。

論点

- 今、「現場で」何が起きているか。(「起きていても不思議ではない」/「起きていかもいけない」も含む)
- ①の背景は何か。「起きてしまいうような現場の背景(環境)」 「声を上げにくい現場の背景(風土)」など。
- 上記の対策として、現場管理者が取り組むべきこと、心がける事。

品質不祥事を防止するための人材育成の方法

梶原 千里(静岡大学 情報学部 行動情報学科 准教授), 鈴木 啓介(川崎重工業(株) 技術開発本部 プロセスエンジニアリングセンター TQM推進部 基幹職)

第5班

趣旨 昨今発生している品質不祥事には、「品質は定められた手続きを遵守することで保証する」、「品質のよい製品・サービスを提供し続けることが、企業が生き残り、持続的成長をするための最良の方法である」といった、品質を中心とした経営を行っていく上で重要となる、品質に関する基本的考え方が浸透していなかったことが要因となっているものが少なくありません。これを浸透させる一つの方法は、教育を徹底することです。これまでもTQMでは、人材育成、教育を重視してきました。これからは、品質不祥事の防止という観点も、教育に取り入れていく必要があります。第5班では、そのような教育の実現に向けて、どのような内容を、どのように教えるべきかを議論します。

論点

- 品質の大切さを全部門、全階層に浸透させるには、どうすればよいか。
- 不正でなく改善を行うことが自然となるようにし、品質不祥事を防止するためには、各階層に対して何を教えればよいか。
- ②をどのように教えると効果的か。

品質不祥事を防止するための組織文化・風土作り

高橋 勝彦(広島大学 大学院先進理工系科学研究科 客員教授), 米澤 昭一(ニチアス(株) 顧問)

第6班

趣旨 品質不祥事を防止するためには、規則、基準、手順等を定めることも重要ですが、その前提として、これらのルールを守る組織文化・風土が根付いている必要があります。組織全体が品質不祥事を容認せず、倫理的な行動を奨励する環境が整うことで、品質不祥事発生リスクを最小限に抑えることが可能になります。このような組織文化・風土の重要性は、既に広く理解されていると同時に、実際の構築が容易でないことも知られています。したがって、品質不祥事を防止する組織文化・風土作りに関して、組織の枠組みを超えて組織の知識や知見、また世代間の考えや風習を分析し、今後の方策を考えていくことが重要です。品質不祥事を防止する組織文化・風土とはどのようなものか、それを醸成するにはどうすればよいかについて議論します。

論点

- 品質不祥事を防止するために、どのような組織文化・風土を築くべきか。
- そのような組織文化・風土を築くためにどのような具体的方法が考えられるか。
- そのためにTQM をどのように活用できるか。

品質不祥事の早期発見と適切な対処

鬼頭 靖(株アイシン TQM推進部 主査), 五味 俊一(旭化成(株) モビリティ&インダストリアル事業本部 生産基盤統括部 品質保証部 部長)

第7班

趣旨 品質不祥事は発生させないことが一番よいことであるのは当然ですが、とはいえ、企業は競争環境の中で利潤を追求しなければならず、人のプレッシャーに対する弱さもあり、品質不祥事が発生するリスクを常に抱えているといえます。したがって、万が一不祥事が行われた場合には、それを早期に発見する仕組みを持っていることも重要です。また、発生した場合の調査方法や対応方法を事前に計画しておくことも重要です。これに対して、内部通報制度、内部監査、外部審査、品質点検、顧問弁護士の活用、危機管理システム等の仕組みを運用している企業もありますが、残念ながら有効に機能しなかった場合も少なくありません。このような早期発見のための仕組みを有効に機能させるためには、どのような工夫が必要かについて議論します。

論点

- 品質不祥事を内部の力で早期に発見するためには、内部通報制度、内部監査、品質点検等の仕組みをどのように活用すればよいか。
- 早期発見のための仕組みを有効に機能させるためには、どのような工夫が必要か。
- 検出された品質不祥事に対し、確実に是正につなげるためには、どのような備えをしておけばよいか。

品質不祥事を防止するための適切な技術の活用

佐野 雅隆(拓殖大学 商学部 准教授), 菊池 佐知子(楽天グループ(株) グループ品質部 部長)

第8班

趣旨 品質不祥事の典型例として、データ改ざん、ねつ造、流用、必要事項の省略などがあります。また、製品に適用される法・規制、規格等に関する最新の情報を把握して遵守する必要がありますが、それらを適切に追従することができず、結果的に違反してしまう事例もあります。このような品質不祥事は、人がデータ等を扱う、人の知識や記憶に依存した仕組みになっていることが大きな要因になっていると考えられます。このような品質不祥事に対しては、人がなるべく介在しないように仕組みを構築することが有効と考えられます。また、それを可能にするICTを中心とした先端技術の進歩はめざましいものがあります。品質不祥事を防止するために活用できる先端技術は何か、どのように活用すればよいかについて議論します。

論点

- 品質不祥事を防止するために、先端技術(IoT、AI、DX等)をどのように活用すればよいか。
- 製品に関わる法・規制、規格等に、適切に追従するためにはどうすればよいか。
- 先端技術を活用する仕組みの中で、人はどのような役割を果たすべきか。

確認ください!

品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

品質の定義	顧客及び社会のニーズを満たす度合い	「品質」は、モノの 出来栄のことではない
品質保証の定義	顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動	
サービス・ドミナント・ロジックの考え方	「価値は、顧客がモノをつかひこなすことによって生まれる。顧客の使用プロセスを含めなければ品質保証は完結しない」という、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。	
「コト価値」の考え方	顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。	

品質管理シンポジウム会員にご入会ください!

QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

- メリット1** 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。
- メリット2** グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。
- メリット3** 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額221,100円(税込み) 団体会員:1口につき年額128,700円(税込み)

入会いただきますと

- **企業会員:無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)を確保できます。**
- **団体会員:無料参加枠1名(通常枠)を確保できます。**
- 無料参加枠以外の方は特別価格(57,200円・税込み)でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2024年3月現在、50音順 128社

- | | | | |
|----------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|
| 1 アート金属工業 (株) | 34 (株) 小松製作所 | 65 中国化薬 (株) | 97 日立 Astemo (株) |
| 2 (株) アーレスティ | 35 (株) コロナ | 66 (株) 千代田グラビヤ | 98 (株) 日立製作所 |
| 3 (株) アイシン | 36 澤藤電機 (株) | 67 DMG 森精機 (株) | 99 日野自動車 (株) |
| 4 アイシン機工 (株) | 37 サンデンホールディングス (株) | 68 (株) テクノプロ | 100 ヒロセ電機 (株) |
| 5 アイシン軽金属 (株) | 38 (株) シーヴィテック | テクノプロ・デザイン社 | 101 富士フイルム |
| 6 アイシンシロキ (株) | 39 (株) GS ユアサ | 69 (株) デンソー | ビジネスイノベーション (株) |
| 7 愛知製鋼 (株) | 40 (株) ジーシー | 70 (株) 東海理化 | 102 富士フイルム |
| 8 アイホン (株) | 41 (株) ジーシーデンタルプロダクト | 71 (株) 東陽テクニカ | マニュファクチャリング (株) |
| 9 (株) 青山製作所 | 42 JFE スチール (株) | 72 東レ (株) | 103 富士電機 (株) |
| 10 (株) EARTHBRAIN | 43 (株) ジェイテクト | 73 TOTO (株) | 104 フジミ工研 (株) |
| 11 (株) 麻生 | 44 (株) ジェイテクト | 74 (一社) 富山県経営者協会 | 105 フタバ産業 (株) |
| 12 (株) アドヴィックス | グライディングツール | 75 トヨタ自動車 (株) | 106 (株) プリチストン |
| 13 (株) イシダ | 45 (株) ジェイテクトサーモシステム | 76 トヨタ自動車九州 (株) | 107 べんてる (株) |
| 14 NEC プラットフォームズ (株) | 46 芝浦機械 (株) | 77 トヨタ自動車北海道 (株) | 108 (株) 保志 |
| 15 (株) 荏原製作所 | 47 清水建設 (株) | 78 (株) 豊田自動織機 | 109 本田技研工業 (株) |
| 16 (株) FTS | 48 JUKI (株) | 79 トヨタ車体 (株) | 110 前田建設工業 (株) |
| 17 (株) MC システムズ | 49 (株) 新川 | 80 トヨタ紡織 (株) | 111 (株) 前田製作所 |
| 18 エリーパワー (株) | 50 Sky (株) | 81 トヨタホーム (株) | 112 マツダ (株) |
| 19 大塚化学 (株) | 51 (株) SUBARU | 82 長津工業 (株) | 113 (株) マルヤスエンジニアリング |
| 20 オークマ (株) | 52 住友理工 (株) | 83 (株) ニコン | 114 丸和電子化学 (株) |
| 21 (株) オティックス | 53 関工業 (株) | 84 西田精機 (株) | 115 三島食品 (株) |
| 22 オムロン (株) | 54 積水化学工業 (株) | 85 日華化学 (株) | 116 三菱電機 (株) |
| 23 花王 (株) | 55 (株) セキソー | 86 (株) 日科技連出版社 | 117 (株) 村田製作所 |
| 24 鹿島建設 (株) | 56 ソニーセミコンダクタ | 87 日産自動車 (株) | 118 (株) メイドー |
| 25 (有) 企画システム | ソリューションズ (株) | 88 日産車体 (株) | 119 名北工業 (株) |
| コンサルティング | 57 ダイキン工業 (株) | 89 日本精工 (株) | 120 安川オートメーションドライブ (株) |
| 26 (株) キャタラー | 58 (株) 大広 | 90 日本電気 (株) | 121 安川コントロール (株) |
| 27 The Qt Company Oy | 59 ダイハツ工業 (株) | 91 (株) 日本科学技術研修所 | 122 (株) 安川電機 |
| 28 京西テクノス (株) | 60 大豊精機 (株) | 92 日本商工会議所 | 123 UBE (株) |
| 29 (株) 神戸製鋼所 | 61 ダイヤモンドエレクトリック | 93 日本特殊陶業 (株) | 124 ユーロフィン FQL (株) |
| 30 コーセル (株) | ホールディングス (株) | 94 パナソニック ホールディングス(株) | 125 ユーロフィン FQL (株) |
| 31 小島プレス工業 (株) | 62 ダイヤモンド電子 (株) | 95 パナソニック オペレーショナル | 126 (株) ユニバンス |
| 32 コニカミノルタ (株) | 63 大和リース (株) | エクセレンス(株) | 127 楽天グループ (株) |
| 33 小林製薬 (株) | 64 (株) 竹中工務店 | 96 (株) 羽生田製作所 | 128 (株) リコー |

参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

開催日時 2024年5月30日(木) 19:00~6月1日(土) 12:00
(5月30日受付開始17:00~、夕食17:30~)

会場 大磯プリンスホテル
〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546
TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

参加対象 企業の役員、上級管理職の方々他
※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論テーマに深い
関連のある部門とその役割を担うの方々のご参加について、ご検
討をお願いします。

参加方法 集合参加 現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポ
ジウムの全プログラムへ参加可能

ライブ 視聴参加 PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~4(2日
目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能

※ライブ視聴参加の場合、GDへは参加できません。
※ライブ配信の詳細(配信プラットフォーム、推奨環境等)はWeb
サイトをご参照ください。

QCS 企業会員・団体会員

参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団
体会員は通常枠の1名分の無料枠をご利用いただけます。
※トップ枠を使用されない場合、無料枠は「通常枠のみ(1名分)」
となります。
無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、57,200円/1人の
参加費を申し受けます。

一般参加

ライブ視聴参加のみ 132,000円/1人

団体参加(ライブ視聴参加)

シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の
方々に参加(視聴)いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。

- ◆ 50名まで 550,000円
 - ◆ 51名~100名まで ... 880,000円
 - ◆ 101名~200名 ... 1,100,000円
- ※ 201名以上の場合は、下記までお問い合わせください。

ご請求に関して

参加費のご請求書は、日本科学技術連盟より、お申込みのご連絡担
当者様宛にメールで電子発行いたします。

付帯費用(集合参加の場合)

- ・別途、宿泊費がかかります。
 - ・宿泊費のご請求書は、株式会社ジャパトラより、お申込みのご連絡担
当者様宛にメールで電子発行いたします。
 - ・食事代(5月30日夕、5月31日朝・昼・夕、6月1日朝・昼)は参加費・宿
泊費に含まれています。
 - ・交通費はご自弁ください。
- ※大磯プリンスホテルは電子タバコも含め全館禁煙です。喫煙禁止
場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリー
ニング代が請求されます。

その他

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)

第116回

第115回

第114回



桜井 博志 氏
旭酒造(株)
会長



増本 陽秀 氏
(株)麻生 飯塚病院
院長



藤井 保文 氏
(株)ピービット
執行役員CCO
東アジア営業責任者

第113回

第112回

第111回



長谷部 佳宏 氏
花王(株)
代表取締役
社長執行役員



津賀 一宏 氏
パナソニック(株)
取締役会長



山本 圭司 氏
トヨタ自動車(株)
執行役員

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

(組織名・役職は2024年3月現在の表記になっております)



小笠原 浩 氏
(株)安川電機
代表取締役会長



永田 靖 氏
早稲田大学
教授



宮本 眞志 氏
トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト
推進本部長



棟近 雅彦 氏
早稲田大学
教授



森 雅彦 氏
DMG森精機(株)
代表取締役社長



山田 秀 氏
慶應義塾大学
教授

シンポジウム 申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから <https://www.juse.jp/qcs/app/>

集合参加一次申込期日: 4月15日(月)

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことが
ありますので、お早めにお申し込みください。

- ・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引き続き二次申込を実施します。
- ・ライブ視聴参加の申込締切は、5月13日(月) 15:00迄 とさせていただきます。

お申込み
QRコード



シンポジウムに関する 問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム 担当:安随・密・橋本・鈴木(佑)
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4階
TEL:03-5990-5846 E-mail:qcs@juse.or.jp

宿泊に関する 問い合わせ先

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当:柏木・鶴川・高梨
〒161-0033東京都新宿区下落合3-21-1 NKフジビル8階
TEL:03-6915-3646 E-mail:qcdesk@japatra.co.jp